

検査情報月報



横浜市衛生研究所

平成30年11月号 目次

【トピックス】

| | |
|----------------------------------|---|
| 遺伝子組換え食品の検査結果(平成30年度) | 1 |
| 器具及び容器包装の規格試験の検査結果(平成30年度) | 3 |

【感染症発生動向調査】

| | |
|--------------------------|---|
| 横浜市感染症発生動向調査報告 10月 | 5 |
|--------------------------|---|

【情報提供】

| | |
|---------------------|---|
| 衛生研究所WEBページ情報 | 9 |
|---------------------|---|

遺伝子組換え食品の検査結果(平成30年度)

遺伝子組換え食品は、内閣府にある食品安全委員会で安全性に問題ないと判断され承認された後、国内での製造・輸入・販売などが可能になります。検査は、承認済みのものについては主に定量検査(食品中に遺伝子組換え体がどのくらい含まれているかを調べる検査)を行います。一方、未承認のものについては定性検査(食品中に遺伝子組換え体が含まれているかを調べる検査)を行います。

平成30年5月と9月に、健康福祉局食品専門監視班が収去した「遺伝子組換え」の表示がない食品30検体について検査を実施しました。

1 遺伝子組換えトウモロコシの定性検査

トウモロコシ加工品10検体について、国内未承認の遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)^{*1}の定性検査を行いました。

検査の結果、9検体で不検出、1検体で検知不能^{*2}となりました。違反検体はありませんでした(表1)。

表1 遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)の検査結果

| 品名 | 原産国 | 検体数 | 検出数 | 検知不能 |
|-----------|-----|-----|-----|------|
| コーンスナック菓子 | 日本 | 6 | 0 | 0 |
| コーンポタージュ | 日本 | 3 | 0 | 0 |
| とうもろこし茶 | 韓国 | 1 | 0 | 1 |
| 計 | | 10 | 0 | 1 |

^{*1} 除草剤耐性と害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだトウモロコシの品種です。過去にアメリカで安全性審査が行われていない種子が誤って流通し、栽培された事例がありました。日本では未承認で、食品衛生法により販売等が認められていないため、検出されれば「食品衛生法違反」になります。

^{*2} 「検知不能」とは、元々食品が持っている、本来なら遺伝子組換え食品であるかどうかにかかわらず検査で検出されるはずの遺伝子(内在性遺伝子)も不検出となり、検査の判定ができない場合をいいます。この原因として、加熱や加圧等の加工処理中に食品中の遺伝子が分解してしまうことが考えられます。

2 遺伝子組換えコメの定性検査

コメ加工品10検体について、国内未承認の遺伝子組換えコメ3品種(63Bt、NNBt、CpTI)^{*3}の定性検査を行いました。

検査の結果、いずれの検体も不検出となり、違反検体はありませんでした(表2)。

表2 遺伝子組換えコメ(63Bt、NNBt、CpTI)の検査結果

| 品名 | 原産国 | 検体数 | 検出数 | 検知不能 |
|--------------------------|-------------------------------|-----|-----|------|
| 麺類加工品 (ビーフン、ライスペーパー等) | 日本(3)、タイ(2)、 台湾(2)、ベトナム(2) | 9 | 0 | 0 |
| 米粉 | 日本 | 1 | 0 | 0 |
| 計 | | 10 | 0 | 0 |

*3 いずれも害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだコメの品種です。日本では未承認で、食品衛生法により販売等が認められていないため、検出されれば「食品衛生法違反」になります。

3 遺伝子組換え大豆の定量検査

大豆穀粒10検体について、国内承認済の遺伝子組換え大豆3品種(RRS、LLS、RRS2)^{*4}の定量検査を行いました。これらの検体は、非遺伝子組換え大豆で、分別生産流通管理^{*5}が行われていました。

定量検査の結果、いずれの検体も混入率は5%以下^{*6}であり、違反検体はありませんでした(表3)。

表3 遺伝子組換え大豆(RRS、LLS、RRS2)の検査結果

| 品名 | 原産国 | 検体数 | 混入率5%を超える検体 |
|------|----------------------|-----|-------------|
| 大豆穀粒 | アメリカ(4)、カナダ(4)、日本(2) | 10 | 0 |
| 計 | | 10 | 0 |

*4 いずれも除草剤耐性を持つ遺伝子を組み込んだ大豆の品種です。日本では、それぞれ平成13年(RRS)、平成14年(LLS)、平成19年(RRS2)に安全性審査を経て承認されています。

*5 遺伝子組換え農作物と非遺伝子組換え農作物を生産・流通・加工の各段階で相互に混入が起こらないよう管理し、そのことが書類等により証明されていることをいいます。分別生産流通管理が行われた遺伝子組換え大豆を原材料とした場合は「遺伝子組換え」等の表示、分別生産流通管理が行われていない場合は「遺伝子組換え不分別」等の表示が必要です(義務表示)。なお、分別生産流通管理が行われた非遺伝子組換え大豆を原材料とした場合は「遺伝子組換えでない」等の表示をすることができます(任意表示)。

*6 分別生産流通管理が適切に行われた場合でも、遺伝子組換え農作物の一定の混入は避けられないことから、大豆では5%以下の意図せざる混入が認められています。

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

器具及び容器包装の規格試験の検査結果(平成30年度)

食器や調理器具、包装材などは、食品と直接接触して使用されることから、一部が剥離又は化学物質が溶出して食品が汚染される可能性があります。そのため食品に接する器具及び容器包装の安全性については食品衛生法により規格が設定されており、適合している必要があります。

平成30年4月及び9月に健康福祉局食品専門監視班が市内で収去した食器等30検体について、器具及び容器包装の規格試験を行いました(表1)。検査の結果、すべての検体が規格に適合していました。

表1 平成30年度器具及び容器包装の規格試験の検体数と項目数

| 材質 | 検体* | 検体数 | 検査項目数 | 検査項目 | | | | | | | | |
|-----------|--------------------|-----|-------|------|-------|------|-----|---------------|-------|----------|-------|----|
| | | | | 一般 | | 材質試験 | | 溶出試験 | | | | |
| | | | | 着色料 | カドミウム | 鉛 | 重金属 | 過マンガン酸カリウム消費量 | フェノール | ホルムアルデヒド | 蒸発残留物 | 亜鉛 |
| ポリエチレン樹脂 | 保存用袋、クリーム絞り袋 | 7 | 42 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 0 | 0 | 7 | 0 |
| ポリプロピレン樹脂 | 保存容器、ストロー、コップ、まな板等 | 10 | 60 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 0 | 0 | 10 | 0 |
| メラミン樹脂 | 皿等の食器 | 6 | 42 | 6 | 6 | 6 | 6 | 0 | 6 | 6 | 6 | 0 |
| シリコーンゴム | 菓子用型、容器の蓋等 | 7 | 56 | 7 | 7 | 7 | 7 | 0 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| 合計 | | 30 | 200 | 30 | 30 | 30 | 30 | 17 | 13 | 13 | 30 | 7 |



*写真は検体の一例です

【規格について】

器具・容器包装又はこれらの原材料は、許可された着色料以外が溶出しないように規定されています（原材料一般の規格）。また材質・使用用途別に規格が設定されており、材質試験と溶出試験を実施して評価します。材質試験は検体中に含まれている化学物質、溶出試験は検体から溶け出す化学物質を測定します。参考に、今回検査した材質の規格を示しました(表2)。

表 2 器具若しくは容器包装又はこれらの原材料の材質別規格

| 種類 | 項目 | | 規格 |
|----------------------|------------------|---------------|---|
| 一般 | 着色料 | | 食品衛生法施行規則別表第 1 掲載品目に掲げる着色料以外の化学的合成品たる着色料を含むものであってはならない。ただし、着色料が溶出または浸出して食品に混合するおそれがないように加工されている場合はこの限りではない。 |
| ポリエチレン及びポリプロピレン樹脂 | 材質試験 | カドミウム | 100 μ g/g 以下 |
| | | 鉛 | 100 μ g/g 以下 |
| | 溶出試験 | 重金属 | 鉛として 1 μ g/mL 以下 |
| | | 過マンガン酸カリウム消費量 | 10 μ g/mL 以下 |
| | | 蒸発残留物 | 30 μ g/mL 以下 |
| メラミン樹脂 | 材質試験 | カドミウム | 100 μ g/g 以下 |
| | | 鉛 | 100 μ g/g 以下 |
| | 溶出試験 | 重金属 | 鉛として 1 μ g/mL 以下 |
| | | フェノール | 5 μ g/mL 以下 |
| | | ホルムアルデヒド | 陰性 |
| 蒸発残留物 | 30 μ g/mL 以下 | | |
| シリコーンゴム (ほ乳器具を除く) | 材質試験 | カドミウム | 100 μ g/g 以下 |
| | | 鉛 | 100 μ g/g 以下 |
| | 溶出試験 | 重金属 | 鉛として 1 μ g/mL 以下 |
| | | フェノール | 5 μ g/mL 以下 |
| | | ホルムアルデヒド | 陰性 |
| | | 蒸発残留物 | 60 μ g/mL 以下 |
| 亜鉛 | 15 μ g/mL 以下 | | |

【理化学検査研究課 食品添加物担当】

横浜市感染症発生動向調査報告 10月

《今月のトピックス》

- 風しんの報告数が多い状態が続いており、今後の推移に注意が必要と考えられます。
- 伝染性紅斑の報告数が多い状態が続いています。
- 百日咳の報告が40件ありました。

◇ 全数把握の対象

〈10月期に報告された全数把握疾患〉

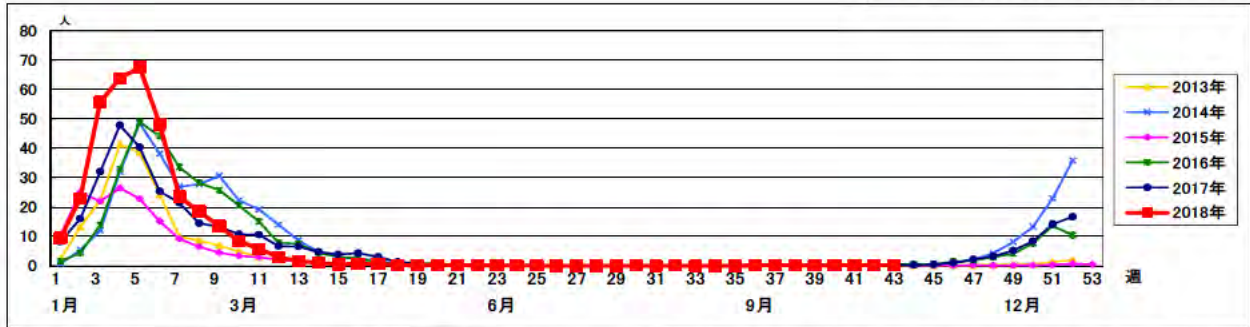
| | | | |
|--------------------|-----|----------------------|-----|
| 腸管出血性大腸菌感染症 | 17件 | 急性脳炎 | 1件 |
| 腸チフス | 1件 | 後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む) | 2件 |
| E型肝炎 | 1件 | ジアルジア症 | 1件 |
| A型肝炎 | 1件 | 侵襲性肺炎球菌感染症 | 4件 |
| デング熱 | 1件 | 水痘(入院例に限る) | 2件 |
| レジオネラ症 | 8件 | 梅毒 | 10件 |
| レプトスピラ症 | 1件 | バンコマイシン耐性腸球菌感染症 | 1件 |
| アメーバ赤痢 | 4件 | 百日咳 | 40件 |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 | 15件 | 風しん | 53件 |
| 急性弛緩性麻痺 | 1件 | — | — |

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が12件(うち2件が無症状病原体保有者)、O26の報告が4件(うち2件が無症状病原体保有者)、O121の報告が1件ありました。
- 腸チフス: インドでの経口感染と推定される報告が1件ありました。
- E型肝炎: 経口感染と推定される報告が1件ありました。
- A型肝炎: 感染経路等不明の報告が1件ありました。
- デング熱: ベトナムでの蚊からの感染と推定される報告が1件ありました。
- レジオネラ症: 肺炎型の報告が8件あり、感染経路不明です。
- レプトスピラ症: 水系感染と推定される報告が1件ありました。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が4件あり、2件は同性間の性的接触、1件は経口感染、1件は感染経路等不明でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 15件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性弛緩性麻痺: ポリオ含有ワクチン接種4回ありの幼児の報告が1件ありました。
- 急性脳炎: 小児の報告が1件あり、病原体不明でした。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者の男性の報告が2件あり、いずれも国内での性的接触で、同性間が1件、異性間が1件でした。
- ジアルジア症: 1件の報告があり、感染経路等不明です。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 60歳代の報告が2件(いずれもワクチン接種なし)、80歳以上の報告が2件(ワクチン接種あり1件、不明1件)ありました。
- 水痘(入院例に限る): 20歳代の報告が2件(ワクチン接種あり1件、不明1件)ありました。
- 梅毒: 10件の報告(無症状病原体保有者2件、早期顕症梅毒Ⅰ期6件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件)がありました。感染地域はいずれも国内で、感染経路は異性間の性的接触が9件、詳細不明の性的接触が1件です。男性9件、女性1件でした。
- バンコマイシン耐性腸球菌感染症: 60歳代の報告が1件あり、感染経路等不明でした。
- 百日咳: 10歳未満では乳児が5件(ワクチン接種あり2件、なし3件、)、小児で18件(ワクチン接種あり16件、不明2件)の報告があり、10歳代で11件(ワクチン接種あり9件、不明2件)、30~40歳代で2件(ワクチン接種不明)、50歳代2件(ワクチン接種不明)、60歳以上2件(ワクチン接種なし1件、不明1件)の報告がありました。
- 風しん: 検査診断例50件、臨床診断例3件が報告されています。10歳代1件(ワクチン接種なし)、20歳代13件(ワクチン接種あり1件、なし5件、不明7件)、30歳代11件(ワクチン接種あり、1件、なし1件、不明9件)、40歳代18件(ワクチン接種なし4件、不明14件)、50歳代8件(ワクチン接種なし3件、不明5件)、60歳代2件(ワクチン接種なし1件、不明1件)でした。男性46件、女性7件でした。

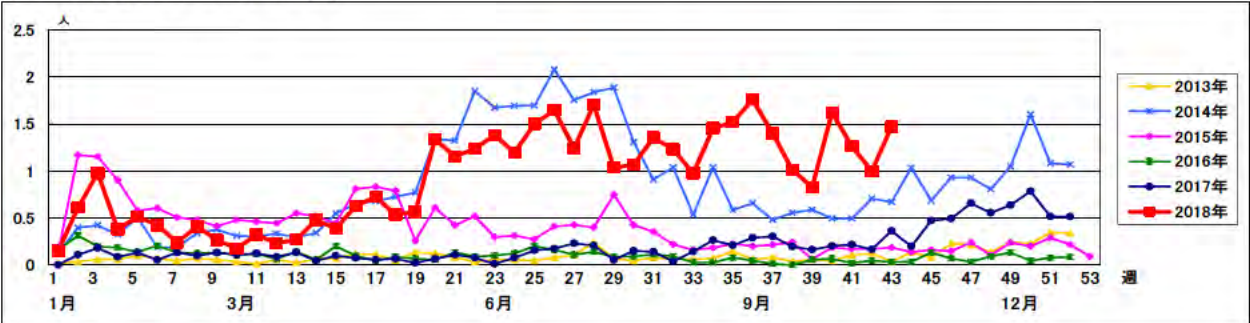
◇ 定点把握の対象

1 インフルエンザ：流行開始の目安となる定点あたり1.0は超えていませんが、定点あたり0.1～0.3で推移し、第43週は0.18でした。市内の学校における集団発生は第36週にて報告されています。

| 報告週対応表 | |
|--------|---------------|
| 第39週 | 9月24日～9月30日 |
| 第40週 | 10月1日～10月7日 |
| 第41週 | 10月8日～10月14日 |
| 第42週 | 10月15日～10月21日 |
| 第43週 | 10月22日～10月28日 |



2 伝染性紅斑：2017年第45週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。第43週では定点あたり1.47となっています。



3 性感染症(9月)

| | | | | | |
|------------|--------|--------|---------------|--------|--------|
| 性器クラミジア感染症 | 男性:27件 | 女性:27件 | 性器ヘルペスウイルス感染症 | 男性:10件 | 女性:14件 |
| 尖圭コンジローマ | 男性:4件 | 女性:1件 | 淋菌感染症 | 男性:16件 | 女性:1件 |

4 基幹定点週報:

| | 第39週 | 第40週 | 第41週 | 第42週 | 第43週 |
|-------------------|------|------|------|------|------|
| 細菌性髄膜炎 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.33 | 0.00 |
| 無菌性髄膜炎 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.67 |
| マイコプラズマ肺炎 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.33 | 0.00 |
| クラミジア肺炎(オウム病を除く) | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る) | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |

5 基幹定点月報(9月)

| | | | |
|-------------------|----|----------------|----|
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 7件 | ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | 4件 |
| 薬剤耐性緑膿菌感染症 | 0件 | — | — |

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

10月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点32件、内科定点8件、基幹定点4件、眼科定点2件で、定点外医療機関からは6件でした。

11月7日現在、表に示した各種ウイルスの分離株9例と遺伝子14例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(10月)

| 主な臨床症状 分離・検出ウイルス | 上 気 道 炎 | 下 気 道 炎 | イン フル エン ザ | 手 足 口 病 | 感 染 性 胃 腸 炎 | 無 菌 性 髄 膜 炎 | そ の 他 |
|---------------------|------------------|------------------|---------------------|------------------|----------------------------|----------------------------|-------------|
| インフルエンザ AH1pdm09 型 | 1 | | | | | | |
| インフルエンザ AH3N2 型 | 1 | | 3 | | | | |
| アデノ 41 型 | | | | | 1 | | |
| ヘルペス 1 型 | | | | | | | 1 |
| パラインフルエンザ 1 型 | 1 | | | | | | |
| ライノ | 3 | 2 | | | | | |
| コクサッキー A2 型 | 1 | 2 | | | | | |
| コクサッキー A4 型 | 1 | | | | | | 1 |
| コクサッキー A16 型 | | | | 1 | | | |
| コクサッキー B4 型 | | | | | | 1 | |
| エンテロ 71 型 | | | | 1 | | | |
| エコー 11 型 | 2 | | | | | | |
| 合計 | 2 8 | 4 | 3 | 2 | 1 | 1 | 1 1 |

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

「菌株同定」の主な依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌3件、サルモネラ菌2件などとなり、非定点からの依頼では、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌6件、結核性抗酸菌3件ありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌22件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌15件などとなっています。

「分離同定」の依頼は、基幹定点からボレリア、紅斑熱群・ツツガムシ2件、レジオネラ属菌1件ありました。

「小児科サーベイランス」では、A群溶血性レンサ球菌3件の依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(10月)

| 菌株同定 | 項目 | 検体数 | 血清型等 |
|------|-------------------------|-----|--|
| 基幹定点 | カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 | 3 | <i>Enterobacter cloacae</i> (1)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Escherichia coli</i> (1) |
| | 腸管出血性大腸菌 | 1 | O121:H19 VT2(1) |
| | メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 | 1 | ES(-)、EXT(-)、TSST(-)、PVL(+) |
| | サルモネラ菌 | 2 | <i>Salmonella</i> O4:i:-、 <i>Salmonella</i> Typhi |
| 医療機関 | カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 | 6 | <i>Enterobacter cloacae</i> (3)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Enterobacter aerogenes</i> (2) |
| | <i>E. albertii</i> との鑑別 | 1 | <i>Hafnia alvei</i> |
| 非定点 | 腸管出血性大腸菌 | 1 | O18:VT(-) |
| | メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 | 1 | ES(-)、EXTA(+)、TSST(-)、PVL(+) |
| | 非結核性抗酸菌 | 3 | <i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i> (1) |
| | | | <i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscessus</i> (2) |
| 保健所 | カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 | 15 | <i>Enterobacter aerogenes</i> (8)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (3)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (2)、 <i>Morganella morganii</i> (1)、 <i>Cedecea davisae</i> (1) |
| | 腸管出血性大腸菌 | 22 | O157:H7 VT1VT2(4)、O157:H7 VT2(9)、O157:H- VT2(1)、O145:H- VT2(2)、O26:H11 VT1(2)、O168:VT2(1)、O8: VT1VT2(1)、O型別不能VT2(2) |
| | バンコマイシン耐性腸球菌 | 1 | <i>Enterococcus faecium vanB</i> 保有 |
| | レジオネラ菌 | 1 | <i>Legionella pneumophila</i> 1群 |

| 分離同定 | 項目 | 材料 | 検体数 | 同定、血清型等 |
|-----------|------------|---------|-----|--|
| 医療機関 基幹定点 | ボレリア、リケッチア | 血清 | 1 | PCR(ボレリア、リケッチア)不検出 抗体(IgG-、IgM 判定保留) |
| | | 水泡内容物 | 1 | PCR(ボレリア、リケッチア)不検出 |
| | 真菌 | 全血(スメア) | 1 | <i>Malassezia restricta</i> |
| 保健所 | レジオネラ菌 | 喀痰 | 7 | <i>Legionella pneumophila</i> 1群(培養法 3)、 不検出(4) |

| 小児科サーベイランス | 項目 | 検体数 | 同定、血清型等 |
|------------|------------|-----|---------------------------|
| 小児科定点 | A群溶血性レンサ球菌 | 3 | A群 T4(1)、A群型別不能(1)、不検出(1) |

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成30年10月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数

平成30年10月の総アクセス数は、138,697件でした。前月に比べ約1%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター^{*1}66.6%、保健情報11.1%、検査情報月報2.4%、食品衛生2.1%、生活環境衛生1.6%、薬事0.7%でした。

^{*1} 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

10月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに?」、2位は「大麻(マリファナ)について」、3位は「横浜市感染症情報センタートップページ」でした。9位には、「ライノウイルスについて」が入っています。また、インフルエンザに関係する項目が3タイトル入り、流行に対する関心の高さがうかがえます。

表1 平成30年10月 アクセス順位

| 順位 | タイトル | 件数 |
|----|------------------------------|--------|
| 1 | 電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに?」 | 11,803 |
| 2 | 大麻(マリファナ)について | 10,159 |
| 3 | 横浜市感染症情報センタートップページ | 5,543 |
| 4 | 水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について | 5,191 |
| 5 | 衛生研究所トップページ | 4,401 |
| 6 | B群レンサ球菌(GBS)感染症について | 4,274 |
| 7 | 横浜市インフルエンザ流行情報16号(2017/2018) | 2,417 |
| 8 | インフルエンザ流行情報(2017/2018) | 2,232 |
| 9 | ライノウイルスについて | 2,193 |
| 10 | インフルエンザワクチンについて | 2,015 |

データ提供: 市民局広報課

電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに?」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/kaisen.pdf>

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

(3) 電子メールによる問い合わせ

平成30年10月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 平成30年10月 電子メールによる問い合わせ

| 内容 | 件数 | 回答部署 |
|-----------------|----|-----------|
| 帰国した小児のワクチンについて | 1 | 感染症・疫学情報課 |
| 食品検査の方法について | 1 | 理化学検査研究課 |

2 追加・更新記事

平成30年10月に追加・更新した主な記事は、11件でした(表3)。

表3 平成30年10月 追加・更新記事

| 掲載月日 | 内容 | 備考 |
|--------|---------------------------------------|----|
| 10月 2日 | 全国の熱中症患者発生状況 | 更新 |
| 10月 2日 | 感染症に気をつけよう(10月号) | 掲載 |
| 10月 3日 | 2018年度蚊媒介感染症サーベイランス結果【速報版】 | 更新 |
| 10月 4日 | 横浜市風しん流行情報3号 | 掲載 |
| 10月11日 | 横浜市風しん流行情報4号 | 掲載 |
| 10月18日 | 2018年度蚊媒介感染症サーベイランス結果【速報版】 | 更新 |
| 10月24日 | 平成30年 熱中症情報 | 更新 |
| 10月25日 | 横浜市風しん流行情報5号 | 掲載 |
| 10月30日 | 2018年度蚊媒介感染症サーベイランス結果【速報版】 | 更新 |
| 10月31日 | 乳幼児突然死症候群(SIDS)について | 更新 |
| 10月31日 | カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)の検査結果(2016-2017年) | 更新 |

【 感染症・疫学情報課 】